

有珠山の火山活動解説資料（平成 24 年 1 月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 20 年 6 月 9 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図 1-①～⑤、図 2）

山頂火口原からの噴気の高さは火口縁上 100m 以下、西山西麓火口群 N-B 火口の噴気は火口縁上 20m 以下で、噴気活動は低調に経過しました。

・地震及び微動の発生状況（図 1-⑥、図 3）

今期間発生した火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。震源は山頂火口原の浅い所に分布しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 4～5）

GPS 連続観測では、山体の収縮を示す地殻変動が続いていますが、これまでの傾向に変化はなく、火山活動の高まりを示すような地殻変動は認められませんでした。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

※ 資料は気象庁のほか、北海道大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

次回の火山活動解説資料（平成 24 年 2 月分）は平成 24 年 3 月 8 日に発表する予定です。

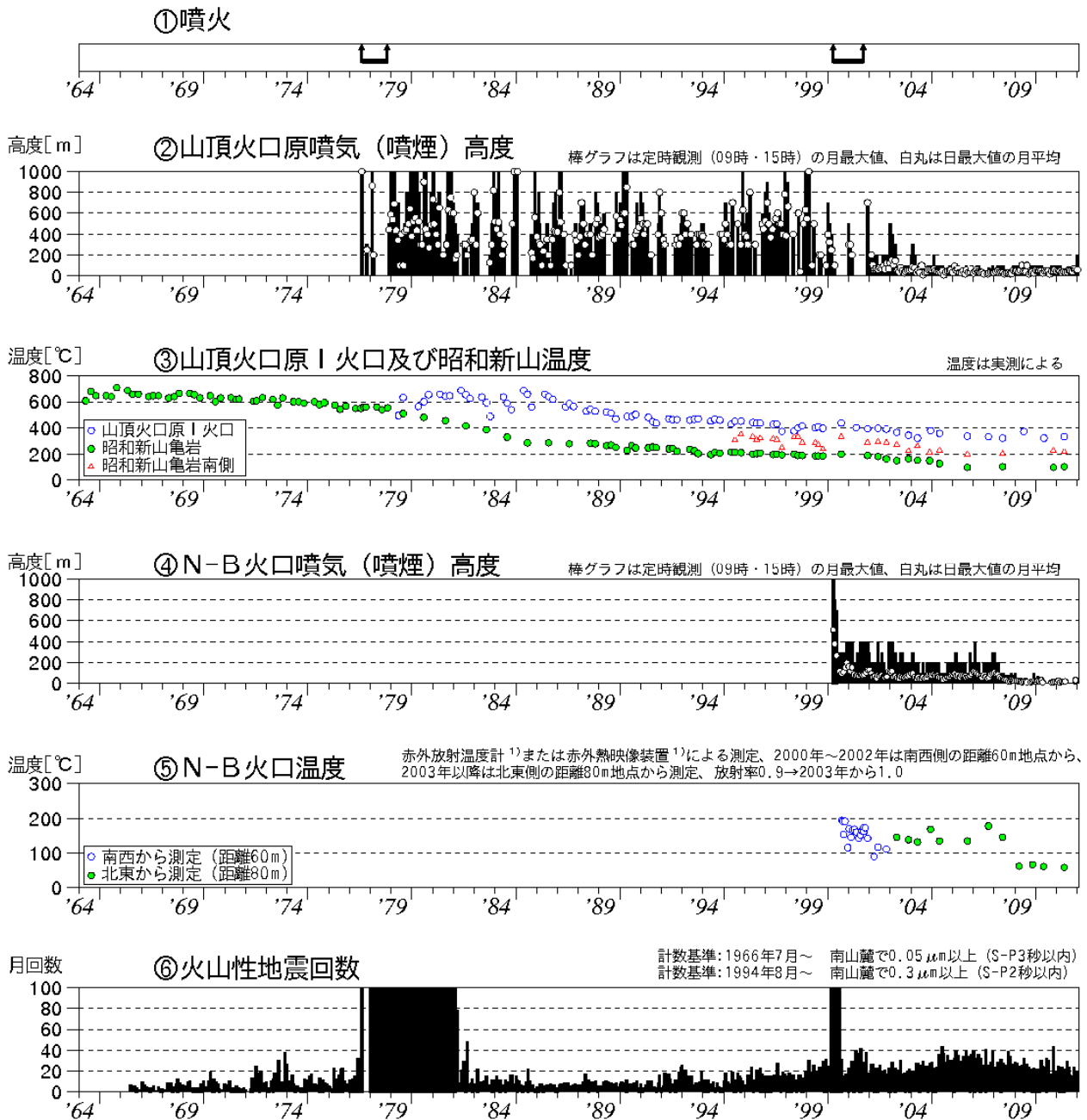


図 1※ 有珠山 火山活動経過図（1964 年 1 月～2012 年 1 月）
↑印で挟まれた期間は噴火活動期

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。



図2 有珠山 山頂火口原北側の状況（1月1日、月浦遠望カメラによる）
白丸内は山頂火口原からの噴気

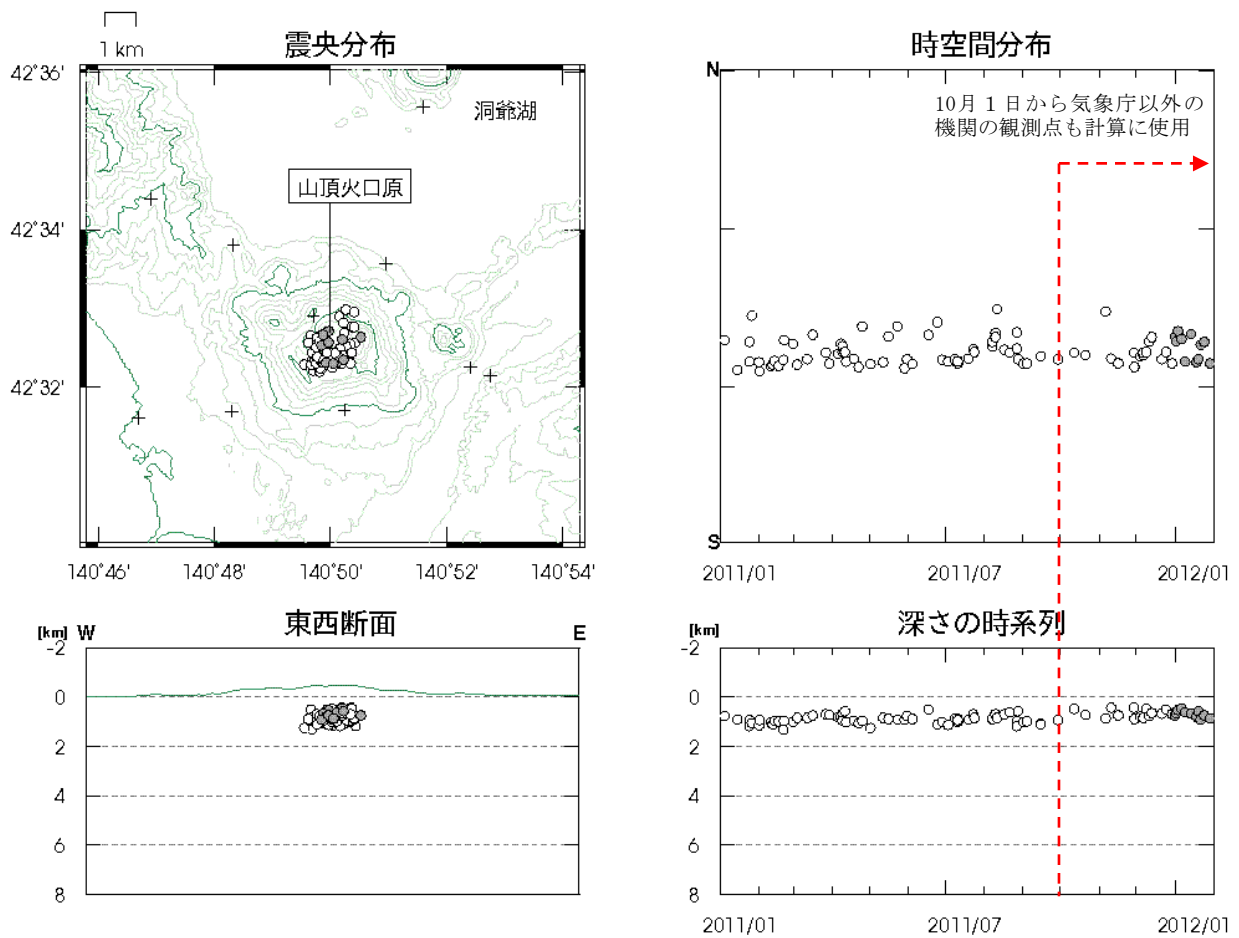


図3※ 有珠山 火山性地震の震源分布（2011年1月～2012年1月）

○印：2011年1月～2011年12月の震源

●印：2012年1月の震源

+印：地震観測点

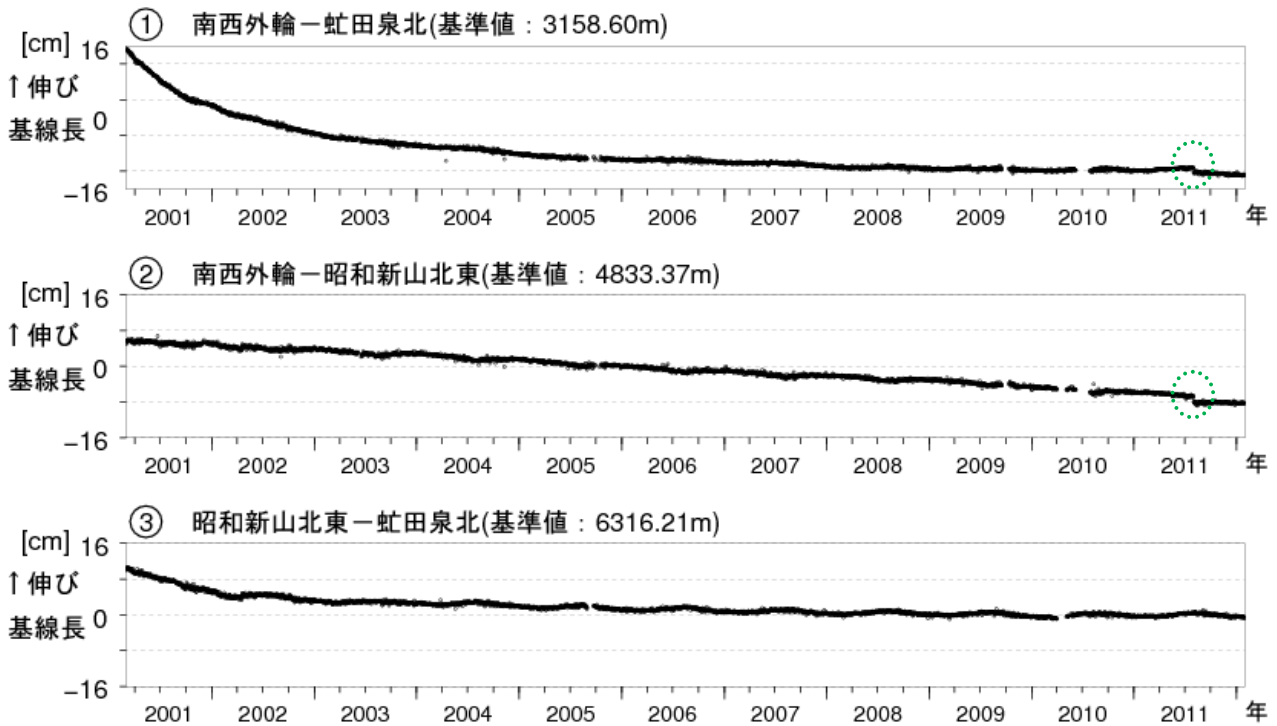


図4 有珠山 GPS 連続観測による基線長変化 (2001 年 3 月~2012 年 1 月)

- ・グラフの空白部分は欠測 GPS 基線①~③は図5①~③に対応
- ・点線円の変動は、機器更新による
- ・2010 年 10 月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良し、掲載する基線を一部変更しました

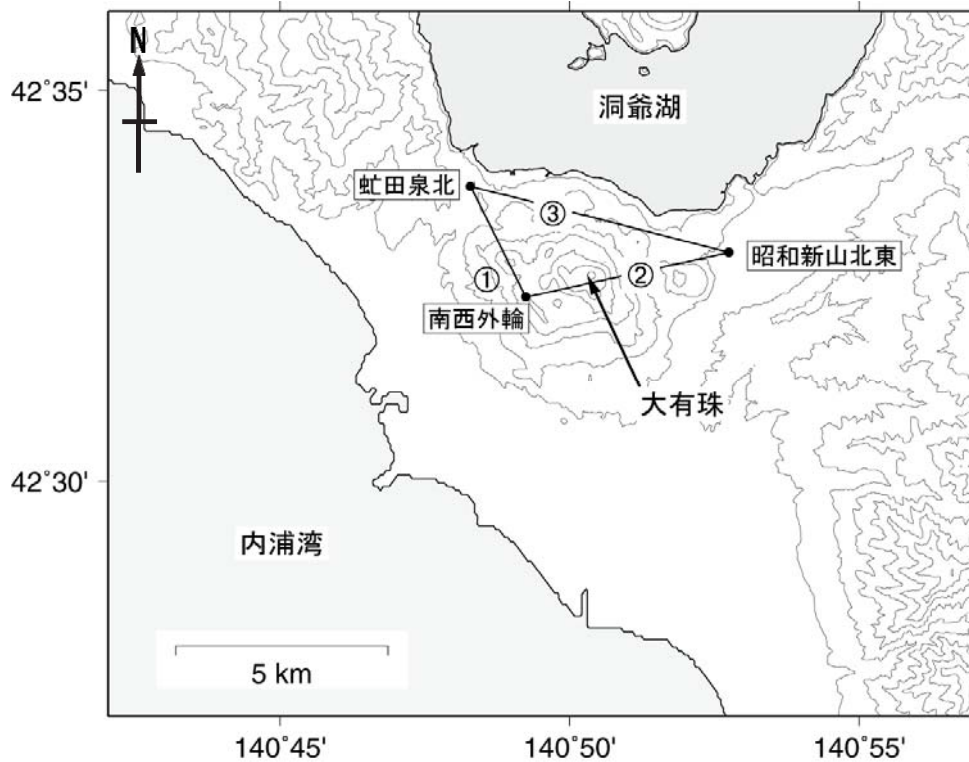


図5 有珠山 GPS 連続観測点配置図

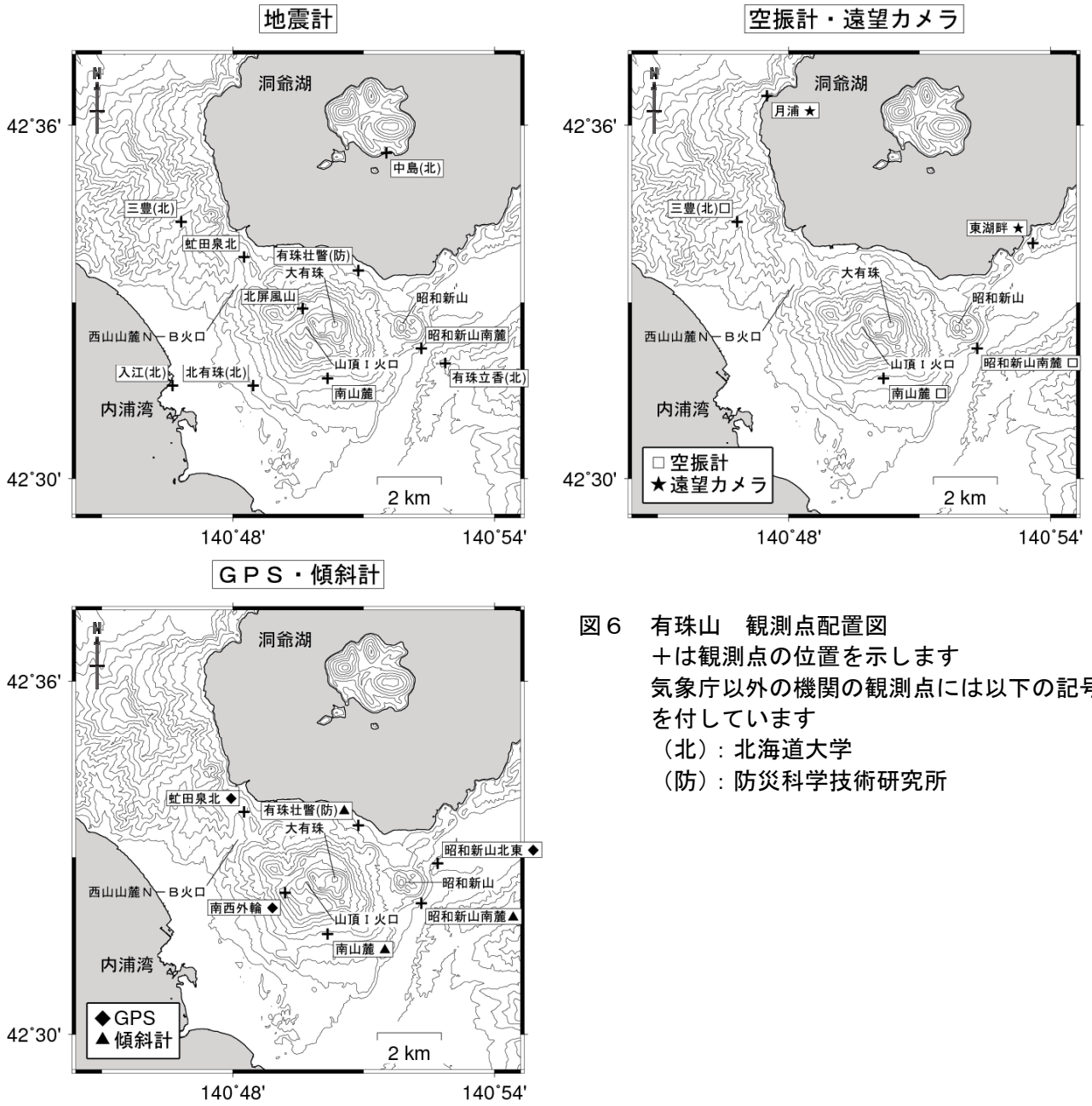


図6 有珠山 観測点配置図
 +は観測点の位置を示します
 気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています
 (北)：北海道大学
 (防)：防災科学技術研究所